

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		子ども発達未来塾椋本					公表日		令和 7年 12月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○							
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○							
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○							
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		支援室を学習スペースと遊び場に分けている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○							
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		○		朝礼などを通じて、PDCAに取り組む				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○							
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			第三者による外部評価の結果等があれば、職員にも情報開示する。				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○							
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		玄関などにも掲示を行っている					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		日々の送迎などからもヒントをもらっている					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○							
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○							

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		固定化してしまうことがある。	月に1度のミーティングなどで変化のあるプログラムの提供に取り組む
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		日々の会話の中でも連携を図っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		待つ支援にも取り組んでいる	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		日々電話等でコンタクトを密にしている	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		児童館などには長期休みなどを主に交流を行っている	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		今後取り組みたい

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		今後取り組めるようにしていく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		担当部署の設置と改善のルール化をしている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの保管場所などで書類などは管理している	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々にあった支援ができるようにしている	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		街の祭りなどにお出かけなどに取り組む
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現時点ではないが、マニュアルは作成できている	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部研修などについても、積極的に参加している	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名		子ども発達未来塾椋本		公表日		令和 7年 12月 12日		
				利用児童数 6名		回収数 2		
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2				特に無し	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2				〃	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2				〃	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2				〃	
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2				〃	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2				〃	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2				〃	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2				〃	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2				〃	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2				〃	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				2		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会を持ち、保護者に情報提供してい
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2				〃	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2				〃	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。				2		ペアレントトレーニング等保護者が参加できる勉強会や茶話会等を企画していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2				〃	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1			1		助言が必要な人には、タイミングを見て、保護者にやわらかく伝えていきたい。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2				〃	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				2		兄弟児への働きかけが必要な場合には、タイミングを見て保護者にやわらかく伝えていきたい。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2				〃		

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2				〃	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2				〃	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2				〃	
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。				2		保護者への周知説明に努めて参ります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				2		定期的な避難訓練は行っているが、保護者の参加は募っていないので周知説明に努めて参ります。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2				〃	
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2				〃	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	2				〃	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	2				〃	
	29	事業所の支援に満足していますか。	2				〃	

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども発達未来塾椋本			
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	2
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日 ~ 2025年 12月 12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	公文を無料で行ったり、毎週火、水、木には算数、タイピング、硬筆をすることで学力の向上を図っている	職員の意見を交換し合い、少しでも業務改善や子どもたちが過ごしやすい環境づくりをするよう工夫している	1日の支援開始の前には、その日することの内容や、役割分担の確認、意見の共有を行っている
2	ブレハブで仕切りが少ないので、スタッフの目が児童に届きやすい	こちらが考えた支援方針だけでなく、支援していく中で保護者から要望があったりしたことは積極的に取り組んでいる	支援終了後には、その日の振り返りをスタッフ間で行い、良かった点や改善点などを見つけて次の取り組みに活かすことを行っている
3	保護者との関係、絆が強い	積極的に保護者との関係づくりを行い、支援内容の様子やイベントの様子等保護者に連絡を行っている	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童が目的に応じた個別の部屋や場所の選択ができない	建物がブレハブのため、仕切りなどに予算がかかる	パーティション、カーテンなどを使用して、疑似的な空間を作るように取り組む
2	外遊びができなく、子どもたちを元気に外で遊ばせることができない	遊び場が砂ではなく砂利なので転倒した際にけがをしやすい	少しずつ砂利の部分を砂に変更して、遊べる環境を作っていく
3			

事業所名		子ども発達未来塾棕本(共生型児童発達支援)				支援プログラム		作成日		2025 年		12 月		1 日	
法人（事業所）理念		専門家の指導の下、共生型の多様な交流を基礎に豊かな人間性と生きる力を持った子どもの育成をめざしています。													
支援方針		一人ひとりの個性を大切にし、丁寧に寄り添いながら支援を行います。同施設には、放課後等デイサービスの学童もかよっており、障害の有無にかかわらず、幅広い世代が共生するインクルーシブな環境を提供します。他者とのかかわりの中で、自主性や主体性を学び、はぐくめるよう支援していきます。													
営業時間		平常時	10 時	0 分から	11 時	30 分まで	送迎実施の有無		あり		なし				
		就学前	14 時	1 分から	17 時	30 分まで									
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣を身に着け、身の回りのことが自分でできるようになるよう、繰り返し丁寧に声をかけ、支援していきます。													
	運動・感覚	安全に配慮し、理学療法士や作業療法士の指導のもと、楽しみながら体を動かしたり、広々としたグラウンドでの活動を取り入れたりしながら、体幹や平衡感覚が身につくように支援していきます。													
	認知・行動	製作や遊びの中で、色や形、物の名前などを知り、できた時の満足感や達成感を味わえるように、一人ひとりに合わせた活動を提供します。													
	言語 コミュニケーション	歌を歌ったり、手遊びをしたり、絵本の読み聞かせなど、楽しみながら言葉に触れる機会をつくり、子どもたち一人ひとりと丁寧なコミュニケーションも心がけながら、他児との関わりも増やしていけるように遊びを提供したり、仲介したりなど、たのしみながら関わりを増やしていけるように支援していきます。													
	人間関係 社会性	放課後等デイサービスの児童と関わることができ、状況や環境に応じた振る舞いやかかわり方などが身につくように、側で見守りながら支援して行きます。													
家族支援		保護者の方との面談など、定期的に行います。					移行支援		一人ひとりの様子に合わせ、他者とのかかわりやコミュニケーションがとれるように支援を行います。						
地域支援・地域連携		保育園や関係施設との連携を行います。					職員の質の向上		週に一度、ミーティングや振り返り、計画などを行います。また、専門家の先生方からの指導もいただきます。						
主な行事等		お誕生日会・ハロウィン・クリスマス・お正月・サツマイモ収穫等の実施。													

事業所名		子ども発達未来塾椋本（共生型放課後等デイサービス）				支援プログラム		作成日		2025 年		12 月		1 日		
法人（事業所）理念		専門家の指導の下、共生型の多様な交流を基礎に豊かな人間性と生きる力を持った子どもの育成を目指しています。														
支援方針		みんなとのびのび安心して過ごしながら自分らしさや相手を大切に作る心を育てます。 勉強の習慣や生きていく上での力を身につけるお手伝いをします。 自然環境や運動や工作などを楽しんだりいろいろな人と話をしたり遊んだりして成長できるようにします。														
営業時間		（平 日）	14	時	0	分から	18	時	0	分まで	送迎実施の有無	あり	なし	（帰宅は保護者がされることが多い。）		
		（休業日）	10	時	0	分から	18	時	0	分まで		あり	なし	（来所は保護者がされることが多い。）		
		支 援 内 容														
本人支援	健康・生活	○あいさつ、片付けを進んでする。ルールを守ってトラブルや危険を避けたり体調の管理ができる。 ・手洗い等感染症対策、健康チェック、静養スペースの確保、ネムネムタイムの設定など。														
	運動・感覚	○大きな動き、小さな動きをくりかえし感覚機能を伸ばす。 ・運動用具（ボール、マットなど）、グラウンド、室内を利用した運動・集団遊びの実施。身体イメージを育てる。 ・手芸工作や描画、ゲーム・おもちゃ・手遊びなどの実施。														
	認知・行動	○学習や遊びを通して思考力・判断力や行動をコントロールする力を育てる。学力やその場に応じて行動する力を育てる。 ・学習習慣をつける。・補助教材（表など）と一緒に作る。・迷路、ジグソーパズルをしたり探索絵本、図鑑などを見る。・折り紙、積み木、ブロック、お買い物ごっこなどの実施。 ・色、図形（形、大小など）の認識、空間イメージなどを育てる。・自然、日用品、生活文化などを通じた学習。														
	言語・コミュニケーション	○その場に応じたことばあいさつ、ことばのスムーズなやり取り、豊かなイメージや表現、文字ことばの理解を深める。 ・読書習慣をつける。本などを通じて文字に親しみ想像力を広げる。・あいさつや説明を受けたり自分からする経験を持つ。														
	人間関係・社会性	○集団活動に参加して技術ルールを身につける。相手や自分を認めうまくつながれるようにしていく。 ・ミーティングや遊びなどでリーダーをお願いする。・心身状況に応じて活動の形を1対1やグループにしていく。														
家族支援		○日常的な関わりを通じて情報を交換共有し、支援の方向性の共有、安心感自信を育てる。 ・送迎時の会話、連絡帳のやり取り、懇談などの実施。							移行支援		○ステージ移行時の情報提供共有。将来のイメージを持てる支援の実施。					
地域支援・地域連携		○学校や関係機関との連携。情報、目的の共有。相互に提案を受け合う。 ・保護者に必要な情報を適切に提供する。・地域資源（図書館、公園など）を適宜利用していく。							職員の質の向上		○各種研修会などの情報提供や参加を促し学びやスキル向上の機会を持っています。（各種テーマ（差別と権利など）、資格取得など）					
主な行事等		季節の行事（お正月、ハロウィン、クリスマスなど）の実施。野菜の栽培収穫など。														